

練馬区地域福祉計画推進委員会

福祉のまちづくり部会

次期練馬区地域福祉計画策定に向けた意見まとめ

(施策3) (報告)

令和6年8月

施策3 ハード・ソフト両面からの

ユニバーサルデザインのまちづくりを推進する

■ 検討にあたって、区から提示された重点的取組項目

- 1 誰もが安心・快適に利用できる施設を増やす
- 2 相互理解を促進し、誰もが社会参加しやすいまちをつくる
- 3 誰にでも伝わる・誰もが使える情報を充実させる

◎ 施策提言（まとめ）

- ① ユニバーサルデザインの考え方を浸透させ、当事者の意見を聞きながら、ハード・ソフト両面からバリアフリー整備を推進していくことが必要である。
- ② バリアフリー整備などの適正利用についての周知を促進することが必要である。
- ③ 共生社会の実現には、一人ひとりの生き方や考え方などに共感し、多様な人との違いを認め合うことが必要である。
- ④ 心のバリアフリーを推進し、やさしいまちづくりのために地域の中で行動に移せるよう、幅広く人材を育成していく必要がある。
- ⑤ 誰もが同じ情報を得られるよう、様々な情報提供・発信の手段および工夫が必要である。
- ⑥ 様々な情報手段があることや活用環境についての周知を行い、理解を深める取り組みが必要である。

【主な意見】

1 誰もが安心・快適に利用できる施設を増やす

- 鉄道駅のバリアフリー化では、ホームドアの整備はぜひ進めていただきたい。
- 駅は、エスカレーターやエレベーターがどこにあるかわかりづらいことがあるので、分かりやすいサインや音を活用した誘導が必要である。
- 駅におけるエスカレーターの使用方法については、「歩かない」ということがもっと認知されるとよいので、引き続き周知が必要である。
- 光が丘駅のバリアフリー化されたルートが増え、行きたい行き方で移動ができるこ

とは良い。

- アクセスルートの取組においては、各駅からのルート整備と同様に、バス停等のアクセシビリティも検討が必要である。
- アクセスルート未指定施設の早期ルート指定と計画的な整備が推進されるよう、基準の再確認あるいは見直しの検討が必要である。
- アクセスルートの経路上では、休憩スペースの設置など、移動や誘導の他にも検討が必要。長く連続して歩行できない高齢者や妊婦、子ども連れなど様々な方へ配慮が必要。そのためには、民間施設等の活用などの検討も必要である。
- 民間建築物においても、当事者の意見を反映できるようになるとより良い。すぐにはできないと思うので、設計者等に当事者の意見を伝えるというところからでも始められるとよい。
- 区立施設は改修の機会を捉えて、エレベーターがない施設には、エレベーターの設置を検討してほしい。
- 区立施設の改修の際は、利用者や介助者等様々な利用者の意見を大事にして欲しい。
- 災害時等に状況を把握できるよう、区立施設における聴覚障害者の情報保障の設備等が必要である。
- 点字ブロックが敷設してあるということはどういうことか等を街の中の人々がきちんと理解して、意識しながら行動してもらえるとよい。
- 「等しく社会参加する機会の確保」となっているが、「機会の確保」ではなく「社会参加の実質的平等の確保」となるよう、表現については見直しが必要である。

2 相互理解を促進し、誰もが社会参加しやすいまちをつくる

- 障害者の社会参加などには、差別意識を感じる現実がある。ぜひ、心のバリアフリーを進めてほしい。
- 心のバリアフリーを進めていくためにも、理念「共感」の部分にあるよう、人それぞれの生き方などを、一人ひとりが共感できることが重要である。
- 大人も子どもも、一緒に共生社会づくりに加わってほしい。
- 地域講座など受講前と受講後の受講者の意識の変化を測ったり、フォローアップするとよい。

- 地域講座やユニバーサルデザイン体験教室は、web 開催やオンラインを活用した企画もあるとよい。
- ユニバーサルデザイン体験教室で学んだことを「どのように行動に移すことができるか」を考えられるようになるとうい。
- 障害のある・なしに関わらず、一緒に学ぶ・育つということが大切である。
- 福祉のまちづくりサポーターは属性のバランスなども大切にし、継続的な確保がなされるとよい。

3 誰にでも伝わる・誰もが使える情報を充実させる

- 情報の入手の方法や選択する機器も様々あるので、いろいろな対応が必要。また、使いこなせる人・使いこなせない人の差が広がらないような対応も必要である。
- ろう者の場合、日本語が不得意な方もいるので、音声認識アプリの文章を見ることよりも動画があれば分かりやすいこともある。また、手話中心の場合は、手話通訳者に助けてもらいたいとも思う。手話を母語とする聞こえない人たちのために、手話通訳者の配置を充実させてほしい。
- 外国人・認知機能に障害がある方への情報保障に向け、わかりやすい表現やルビ、多言語表示など、方法は多岐に渡るので、今後の展開に期待している。
- 区が送付する通知文書の封筒の音声コードの取組については、伝え方等を工夫して、全ての視覚障害者に知ってもらえるような周知が必要である。
- 情報の入手や活用においては、アプリを使用する障害者が増えているが、情報のやり取りに手間取ったり、時間がかかったりすることを許容できるような社会になるとよい。
- 高齢者が集まるイベントなどでも音声認識アプリは大変有効でないかと思う。
- デジタルの情報発信とともに、アナログの情報発信の方法も充実して欲しい。
- 区立施設の間合せ先や web 申し込み後の対応など、メールでのやりとりがスムーズにいくように改善を図ってほしい。
- やさしい日本語の「やさしさ」の基準が曖昧である。障害者等の当事者に内容や文章を確認する機会も必要。また、文章だけでなく、図やイラストを用いた説明も必要である。

- 情報発信については、受託事業者にも指示や研修などをしてもらいたい。
- バリアフリーマップは、スマートフォンおよびタブレットでも活用できるような情報提供アプリがあるとよい。

① 地域福祉計画推進委員会 福祉のまちづくり部会員名簿

No.	区分	氏名	フリガナ	所属団体等
1	学識経験者	植田 瑞昌 (部会長)	ウエダ ミズヨ	日本女子大学 建築デザイン学部 建築デザイン学科
2		山崎 晋 (副部会長)	ヤマザキ シン	日本大学 理工学部 まちづくり工学科
3	事業者団体	岡崎 章臣	オカザキ アキタ	東京建築士会練馬支部
4		青木 伸吾	アキ シンゴ	介護サービス事業者連絡協議会住宅改修 部会
5	関係事業者	岩澤 貴顕	イワザキ タカキ	西武鉄道株式会社 鉄道本部 計画管理部 駅まち創造課長
6		廣元 勝志	ヒロモト カシ	東京地下鉄株式会社（東京メトロ）鉄道本部 鉄道統括部 移動円滑化設備整備促進担当課長
7		山本 良司	ヤマモト リョウジ	東京都交通局 建設工務部 計画担当 課長
8	地域活動団体	熊谷 晴美	クマガイ ハルミ	練馬区商店街連合会
9		千葉 智也	チバ トモヤ	特定非営利活動法人手をつなご
10	福祉関係団体	宗形 積	ムネカタ セキ	練馬区老人クラブ連合会
11		鴨治 慎吾	カモジ シンゴ	全国頸髄損傷者連絡会 東京支部
12		的野 碩郎	マノ セキロウ	練馬区視覚障害者福祉協会会長
13		渡邊 健	ワタナベケン	練馬区聴覚障害者協会
14		福山 祥平	フクヤマ ショウヘイ	練馬手をつなぐ親の会
15		轡田 英夫	ウツタ ヒデオ	特定非営利活動法人 練馬精神保健福 祉会

②福祉のまちづくり部会 開催経過

回	開催日	検討項目
第1回	令和6年6月24日	① 地域福祉計画取組状況報告について ② 地域福祉に関する国・都の動向について ③ 次期練馬区地域福祉計画の策定について ④ 意見交換 (1)次期練馬区地域福祉計画の体系（案）について (2)各施策の方向性について（案）
第2回	令和6年7月16日	① 推進委員会への報告について